

能楽体験（平成20年10月8日・12月2日）

能楽体験は、文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」の一環で、本校2年生の「総合的な学習の時間」（テーマ：「日本の文化」）を使って実施しました。また国語、社会の学習と関連させて理解の深化を図りました。

片山家能楽・京舞保存財団の片山清司先生の御指導のもと、10月8日（水）のワークショップでは、先生から直接手ほどきを受けました。その後、生徒全員が放課後や昼休みの時間を利用して練習し、12月2日（火）の体験本番を迎えました。

ワークショップ日程 10月8日（水） 会場：本校会議室

| | | | | |
|--------|-------|------------|-------|--------|
| 13:30 | 13:35 | 14:05 | 15:05 | 15:15 |
| 開 会 | 能の解説 | 謡、仕舞の体験・練習 | | 閉 会 |

能楽体験日程 12月2日（火） 会場：本校格技場

| | | | | | |
|--------|-----------------|--------------------|--------------------|--------|-------|
| 13:30 | 13:35 | | | 15:05 | 15:15 |
| 開 会 | 第1部絵本語り 「舍利」 | 第2部生徒共演による 謡・仕舞 | 第3部能「舍利」 シテ片山清司 | 閉 会 | |

実技指導

財団法人片山家能楽・京舞保存財団

片山 清司 氏（京都観世会会長）、橋本忠樹氏、武田大志氏

生徒の感想文より（2年生）

・私は仕舞を希望して、片山先生から直接能の仕草や足運び等を教えてもらいました。また本番では謡も体験し、日ごろできないような体験ができ良かったです。今まで能について何も知らなかったのですが、自ら体験し実際に見せてもらうことで、身近なものになりました。

・第2部の私たちの発表では、立派な舞台でこれまで練習してきたことを発表できたので嬉しかったです。この発表を通じて実際の舞台に立った気持ちも味わうことができたように思います。また今回はプロの能楽師さんとの共演で、みんなで合わせる楽しさを感じることができました。

・印象に残ったのは「舞台」です。なぜ、一本松の描かれた正面の壁を「鏡板」というのか、とても不思議でした。「神様に背を向けることになるから」という考え方がすごく日本らしくて、そこからも文化・伝統を感じることができました。また四つの柱で「結界」を表現しているのも面白いと思いました。

・思っていた以上に能は難しかったです。能楽独特のリズムがつかめず、最初は全く謡えなかったのですが、何度も何度もリズムをとることで体になじみ、やっと謡えました。

・本物の「舍利」をはじめで見ました。動きが激しいところとゆっくりしているところの差が魅力的でした。特にラストの部分が好きです。面は韋駄天のも怖かったけど、視野が狭い中でクルクル回ったり早く歩いたり、飛んだり、凄いスケールでした。足で踏む時の音も印象的でした。

活動の様子

能楽ワークショップ（10月8日） 本校会議室



能楽体験（12月2日） 本校格技場

